

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105271
法人名	株式会社アクト企画
事業所名	グループホーム元気家
所在地	松山市福音寺町615-5
自己評価作成日	平成 21年 7 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの居場所を見つけるように支援し、安心して楽しい毎日が送れるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年近くになるが職員の異動も比較的少ないため、落ち着いた環境で継続した支援ができています。職員は「その人らしさのびのびと」を大切にしており、利用者はゆったりとした生活ができています。地域とのつながりは少しずつだが着実に築かれつつあり、住民のホームへの理解も深まり、ボランティアの子供達や近所との交流も自然にできています。職員が情報を活用し、日々の支援や家族との関わりに役立っている。運営についても、誰もが気兼ねなく意見を言える雰囲気がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム元気家

(ユニット名) 大地

記入者(管理者)
氏名 八雲美恵子

評価完了日 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) その人らしく暮らし続けることを支援し、地域との信頼関係を築いていけるように努めている。	
			(外部評価) 理念について職員全員で話し合い、また振り返りもできている。具体的なケアにも活かされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会の行事や清掃活動に参加している。日々の散歩中にあいさつしたり、野菜をもらったりなどの交流をしている。	
			(外部評価) 町内会長や民生委員の協力により、自治会の清掃活動や行事等を通して地域との交流が着実に築かれている。また、散歩時の挨拶、野菜や手作品の差し入れ、中学生のボランティア訪問等、日常のお付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 民生委員を通じて、地域の人々の状況把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 状況報告や話し合いを行い、意見をサービスの向上に活かすよう努めている。	
			(外部評価) 会議を定期的開催し、ホームの状況などを報告するとともに、行事や運営について、またタイムリーな話題について話し合っている。いただいた意見や提案は職員間で共有し、対応を検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 研修や運営推進会議などにおいて、話し合いや相談をし、協力関係を築くように、努めている。	
			(外部評価) 市の職員研修を受け入れたり、会議等に参加してもらい、日頃から情報交換や相談をして連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の安全を考え、共に生活していく上で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束について研修する機会を設けており、必要時には職員間で確認しながら身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。状況によっては家族にも相談しながら、抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会や、勉強会で取り上げ情報交換を行い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 個々の必要性を話し合い活用出来る様支援しているが、職員の学ぶ機会を持っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前に、十分な説明を行い、理解・納得して頂いてから、契約するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱や苦情相談窓口を常に設置している。	
			(外部評価) 面会時など、家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。家族会は無いが、玄関に意見箱を設置し、内外の相談窓口も掲示している。要望等は職員間で共有し話し合っ運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常に意見や提案を聞く機会を設けている。 (外部評価) 毎月、定期的に職員会議を開催し、意見が活発に出されている。また、日常的にコミュニケーションを図り、意見や提案を検討する仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る限り、環境や条件の整備に努めるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 色々な研修案内を回覧し、希望する者には参加出来る様に勤務表を組むなど、職員の自己啓発の機会をつくっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 交流会や、勉強会などを通じて、交流する機会をつくっているが、相互訪問等の活動は出来ていない。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には必ず本人と面談し、本人の要望くみ取り、不安を解消出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には必ず家族と面談し、家族の思いや不安等を聴くようにしており、何でも相談出来る関係づくりを目指している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時家族に協力してもらい、センター方式を記入してもらうようにしている。それをふまえて、本人・家族と相談し、対応するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事の味付けを教えてもらったり、昔の話をしてもらったりして、出来る事を手伝ってもらい、出来ない事をお手伝いしながら、安心して暮らせるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、日々の状況など、家族に伝え、相談したり協力をお願いしたりしている。緊急時には電話連絡をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人希望がある場合は家族に協力してもらい、本人の希望に添えるように努めている。 (外部評価) 利用者の今までのお付き合いや要望を職員が把握し、できるだけ希望に添えるよう、家族の協力を得ながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を考慮した席の配置にするなど、共に支え合い共同生活が送れるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要な時には相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりに担当職員がおり、本人の希望や意向の把握に努めている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で一人ひとりの思いや意向を把握し、記録やカンファレンス等を通して職員間で共有している。どのように暮らすのが最良なのか検討して、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時家族に協力してもらい、センター方式を記入してもらうようにしている。それを、職員全員で共有し把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の日課表を作成し、通常とは異なる事があった場合は個人ファイルや申し送りノートに記入し、職員全員で把握出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の日々の状況や様子をふまえて、定期的にケアカンファレンスを行い、本人・家族・職員の意見を反映した介護計画を作成するようにしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりに担当職員がおり、日々の状況の把握に努めている。定期的にカンファレンスをして介護計画を作成し、評価している。家族を含めた関係者の意見も把握し反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や変化については、個人ファイルに細かく記録している。申し送りにおいて、情報の共有をされており、その情報を、実践の見直しや介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り柔軟な姿勢で対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内の行事には出来る限り参加出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 特定の協力医療機関があり、定期的に受診を行なっ ている。本人や家族の希望する医療機関を受診する場 合は、日々の体調を詳しく伝え、医師に伝達してもら うように支援している。</p> <p>(外部評価) 本人・家族の希望する医療機関で受診できるよう努め ている。協力医療機関で定期的に受診し、情報交換も できている。また、他の医療機関を利用するときは、 家族に協力してもらい日々の体調など情報を伝えて、 適切な受診を支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日々の体調の変化や気付きは個人ファイルに記録して おり、看護師に伝えて相談し、受診や、看護を受けれ るように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 病院関係者とは、常に利用者の情報交換や相談は行っ ており、関係づくりは出来ている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合については、家族や本人と早くから話 し合いはしている。終末期については、出来ることを 充分理解してもらえるように、説明している。</p> <p>(外部評価) 今までに看取りをしたのは1名だが、早期の段階から 終末期支援や対応などについて情報提供し、その都 度、家族を含めて話し合っている。本人や家族の希 望、ホームでできることなどを話し合い、必要に応じ た医療との連携も大切にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員全員が救急講習を受けており、日々努力している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の非難訓練は消防署の指導のもと定期的に行っており、全職員が見につけている。 (外部評価) ホームとして、定期的に訓練を実施するとともに、消防署の協力を得た訓練も実施している。また、夜間を想定したり、ミニ訓練、通報・伝達訓練なども実施し、次回につなげるように評価もしている。	実践的な訓練をしているが、地震対策や備蓄についてはまだ検討段階であるため、避難訓練などの評価を基に、さらに話し合いを重ねていくことが望まれる。また、地域と協力した防災や訓練を目標に取り組むことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 今までの生活習慣・環境を理解した上で、人格を尊重した声掛けや対応をするように心がけている。 (外部評価) 個々の利用者の人格を尊重したケアとなるよう、職員は日頃の対応や言葉かけに気をつけている。また、取り扱う書類等にも注意し、プライバシーを損ねないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望や思いを引き出し、選択できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースに合わせ、本人の希望に添うように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みに合わせた身だしなみやおしゃれを出来るように支援しており、月1回美容師が来所して、本人希望により利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を決める時利用者と一緒に考えている。おやつや食事の準備も手伝ってもらえるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の能力を活かして、準備や調理、片付け等を行っている。献立も職員と一緒に考えて、買い物にも同伴している。職員との会話を楽しみながら、ゆったりと食事をしている。時間のかかる方は、できるだけ自力で食べられるよう、個々に合った工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考えた献立を立てている。食事量・水分量も確保出来るように、声掛けや工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後は、希望されない方もおり全員は出来ていない。夕食後は必ず口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを把握し、声掛けや誘導を行っており、自立支援もしている。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握し、能力に応じた支援をしている。排泄状況は記録に残している。夜間だけトレーニングパンツの使用など、利用者の状況や希望に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や働きかけを個々にしているが、必要な時はドクターと相談しながら、薬でコントロールしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々に応じた支援をしているが、時間帯は変更することは難しい。	
			(外部評価) 日々の心身の状態を把握し、時間など個々の希望に応じた入浴ができるよう支援している。自立した入浴が可能な利用者もいるが、安全のため職員が更衣室に待機し、見守りながら適切に介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の生活習慣や、状況に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員で薬について理解出来るように工夫しており、誤薬のないように徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に合った生活リズムで、役割や楽しみを見つけるように努力している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望にそった支援を出来る限りしている。	
			(外部評価) 散歩や買い物、地域活動への参加など、利用者一人ひとりの希望に添った外出ができるよう支援している。家族等の協力を得ながら、本人の思いに添ったその人らしい暮らしができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 出来る限り支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があればいつでも電話できるようにしている。手紙等は出来る限り本人に書いてもらうようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活観や季節感を採り入れた楽しい雰囲気を演出しており、空調等にも配慮している。	
			(外部評価) 居間は、利用者がゆったりとくつろぐことができるよう、畳やソファが配置され、飾りや窓からの景色で季節を感じられるよう工夫している。台所から居間の利用者の動きを把握でき、浴室やトイレ、廊下等には手すりがあり、安心して過ごせる工夫がある。掃除や換気がよくできており、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールの隅にソファを置いたり、廊下にベンチをおいて工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の意思を尊重しながら、家族とも相談しながら、使い慣れた家具や写真を飾り、居心地の良い居室作りをしている。	
			(外部評価) 本人の居心地の良さに配慮し、仏壇やタンス、テレビ、写真、人形など、家族の理解と協力を得ながら、馴染みのものを持ち込んで、個性のある居室となっている。居室の中や押入れの整理は、本人や家族と協力しながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の状況を把握し、声掛け・誘導・介助を行っている。トイレや自室に自分で行けるように工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105271
法人名	株式会社アクト企画
事業所名	グループホーム元気家
所在地	松山市福音寺町615-5
自己評価作成日	平成 21年 7月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの居場所を見つけるように支援し、安心して楽しい毎日が送れるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年近くになるが職員の異動も比較的少ないため、落ち着いた環境で継続した支援ができています。職員は「その人らしさのびのびと」を大切にしており、利用者はゆったりとした生活ができています。地域とのつながりは少しずつだが着実に築かれつつあり、住民のホームへの理解も深まり、ボランティアの子供達や近所との交流も自然にできています。職員が情報を活用し、日々の支援や家族との関わりに役立っている。運営についても、誰もが気兼ねなく意見を言える雰囲気がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム元気家

(ユニット名) 太陽

記入者(管理者)
氏名 八雲美恵子

評価完了日 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) その人らしく暮らし続けることを支援し、地域との信頼関係を築いていけるように努めている。	
			(外部評価) 理念について職員全員で話し合い、また振り返りもできている。具体的なケアにも活かされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会の行事や清掃活動に参加している。日々の散歩中にあいさつしたり、野菜をもらったりなどの交流をしている。	
			(外部評価) 町内会長や民生委員の協力により、自治会の清掃活動や行事等を通して地域との交流が着実に築かれている。また、散歩時の挨拶、野菜や手作品の差し入れ、中学生のボランティア訪問等、日常のお付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 民生委員を通じて、地域の人々の状況把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 状況報告や話し合いを行い、意見をサービスの向上に活かすよう努めている。	
			(外部評価) 会議を定期的開催し、ホームの状況などを報告するとともに、行事や運営について、またタイムリーな話題について話し合っている。いただいた意見や提案は職員間で共有し、対応を検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 研修や運営推進会議などにおいて、話し合いや相談をし、協力関係を築くように、努めている。	
			(外部評価) 市の職員研修を受け入れたり、会議等に参加してもらい、日頃から情報交換や相談をして連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の安全を考え、共に生活していく上で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束について研修する機会を設けており、必要時には職員間で確認しながら身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。状況によっては家族にも相談しながら、抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会や、勉強会で取り上げ情報交換を行い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 個々の必要性を話し合い活用出来る様支援しているが、職員の学ぶ機会を持っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前に、十分な説明を行い、理解・納得して頂いてから、契約するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱や苦情相談窓口を常に設置している。 (外部評価) 面会時など、家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。家族会は無いが、玄関に意見箱を設置し、内外の相談窓口も掲示している。要望等は職員間で共有し話し合って運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常に意見や提案を聞く機会を設けている。 (外部評価) 毎月、定期的に職員会議を開催し、意見が活発に出されている。また、日常的にコミュニケーションを図り、意見や提案を検討する仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る限り、環境や条件の整備に努めるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 色々な研修案内を回覧し、希望する者には参加出来る様に勤務表を組むなど、職員の自己啓発の機会をつくっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 交流会や、勉強会などを通じて、交流する機会をつくっているが、相互訪問等の活動は出来ていない。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には必ず本人と面談し、本人の要望くみ取り、不安を解消出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には必ず家族と面談し、家族の思いや不安等を聴くようにしており、何でも相談出来る関係づくりを目指している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時家族に協力してもらい、センター方式を記入してもらうようにしている。それをふまえて、本人・家族と相談し、対応するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事の味付けを教えてもらったり、昔の話をしてもらったりして、出来る事を手伝ってもらい、出来ない事をお手伝いしながら、安心して暮らせるように支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、日々の状況など、家族に伝え、相談したり協力をお願いしたりしている。緊急時には電話連絡をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人希望がある場合は家族に協力してもらい、本人の希望に添えるように努めている。 (外部評価) 利用者の今までのお付き合いや要望を職員が把握し、できるだけ希望に添えるよう、家族の協力を得ながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を考慮した席の配置にするなど、共に支え合い共同生活が送れるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要な時には相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりに担当職員がおり、本人の希望や意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 日々の暮らしの中で一人ひとりの思いや意向を把握し、記録やカンファレンス等を通して職員間で共有している。どのように暮らすのが最良なのか検討して、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時家族に協力してもらい、センター方式を記入してもらうようにしている。それを、職員全員で共有し把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の日課表を作成し、通常とは異なる事があった場合は個人ファイルや申し送りノートに記入し、職員全員で把握出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の日々の状況や様子をふまえて、定期的にケアカンファレンスを行い、本人・家族・職員の意見を反映した介護計画を作成するようにしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりに担当職員がおり、日々の状況の把握に努めている。定期的にカンファレンスをして介護計画を作成し、評価している。家族を含めた関係者の意見も把握し反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や変化については、個人ファイルに細かく記録している。申し送りにおいて、情報の共有をされており、その情報を、実践の見直しや介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り柔軟な姿勢で対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内の行事には出来る限り参加出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 特定の協力医療機関があり、定期的に受診を行なっ ている。本人や家族の希望する医療機関を受診する場 合は、日々の体調を詳しく伝え、医師に伝達してもら うように支援している。</p> <p>(外部評価) 本人・家族の希望する医療機関で受診できるよう努め ている。協力医療機関で定期的に受診し、情報交換も できている。また、他の医療機関を利用するときは、 家族に協力してもらい日々の体調など情報を伝えて、 適切な受診を支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日々の体調の変化や気付きは個人ファイルに記録して おり、看護師に伝えて相談し、受診や、看護を受けれ るように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 病院関係者とは、常に利用者の情報交換や相談は行っ ており、関係づくりは出来ている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合については、家族や本人と早くから話 し合いはしている。終末期については、出来ることを 充分理解してもらえるように、説明している。</p> <p>(外部評価) 今までに看取りをしたのは1名だが、早期の段階から 終末期支援や対応などについて情報提供し、その都 度、家族を含めて話し合っている。本人や家族の希 望、ホームでできることなどを話し合い、必要に応じ た医療との連携も大切にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員全員が救急講習を受けており、日々努力している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の非難訓練は消防署の指導のもと定期的に行っており、全職員が見につけている。 (外部評価) ホームとして、定期的に訓練を実施するとともに、消防署の協力を得た訓練も実施している。また、夜間を想定したり、ミニ訓練、通報・伝達訓練なども実施し、次回につなげるように評価もしている。	実践的な訓練をしているが、地震対策や備蓄についてはまだ検討段階であるため、避難訓練などの評価を基に、さらに話し合いを重ねていくことが望まれる。また、地域と協力した防災や訓練を目標に取り組むことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 今までの生活習慣・環境を理解した上で、人格を尊重した声掛けや対応をするように心がけている。 (外部評価) 個々の利用者の人格を尊重したケアとなるよう、職員は日頃の対応や言葉かけに気をつけている。また、取り扱う書類等にも注意し、プライバシーを損ねないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望や思いを引き出し、選択できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースに合わせ、本人の希望に添うように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みに合わせた身だしなみやおしゃれを出来るように支援しており、月1回美容師が来所して、本人希望により利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を決める時利用者と一緒に考えている。おやつや食事の準備も手伝ってもらえるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の能力を活かして、準備や調理、片付け等を行っている。献立も職員と一緒に考えて、買い物にも同伴している。職員との会話を楽しみながら、ゆったりと食事をしている。時間のかかる方は、できるだけ自力で食べられるよう、個々に合った工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考えた献立を立てている。食事量・水分量も確保出来るように、声掛けや工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後は、希望されない方もおり全員は出来ていない。夕食後は必ず口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを把握し、声掛けや誘導を行っており、自立支援もしている。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンを把握し、能力に応じた支援をしている。排泄状況は記録に残している。夜間だけトレーニングパンツの使用など、利用者の状況や希望に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や働きかけを個々にしているが、必要な時はドクターと相談しながら、薬でコントロールしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々に応じた支援をしているが、時間帯は変更することは難しい。	
			(外部評価) 日々の心身の状態を把握し、時間など個々の希望に応じた入浴ができるよう支援している。自立した入浴が可能な利用者もいるが、安全のため職員が更衣室に待機し、見守りながら適切に介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の生活習慣や、状況に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員で薬について理解出来るように工夫しており、誤薬のないように徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に合った生活リズムで、役割や楽しみを見つけるように努力している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望にそった支援を出来る限りしている。	
			(外部評価) 散歩や買い物、地域活動への参加など、利用者一人ひとりの希望に添った外出ができるよう支援している。家族等の協力を得ながら、本人の思いに添ったその人らしい暮らしができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 出来る限り支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があればいつでも電話できるようにしている。手紙等は出来る限り本人に書いてもらうようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活観や季節感を採り入れた楽しい雰囲気を演出しており、空調等にも配慮している。	
			(外部評価) 居間は、利用者がゆったりとくつろぐことができるよう、畳やソファが配置され、飾りや窓からの景色で季節を感じられるよう工夫している。台所から居間の利用者の動きを把握でき、浴室やトイレ、廊下等には手すりがあり、安心して過ごせる工夫がある。掃除や換気がよくできており、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールの隅にソファを置いたり、廊下にベンチをおいて工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の意思を尊重し、家族とも相談しながら、使い慣れた家具や写真を飾り、居心地の良い居室作りをしている。	
			(外部評価) 本人の居心地の良さに配慮し、仏壇やタンス、テレビ、写真、人形など、家族の理解と協力を得ながら、馴染みのものを持ち込んで、個性のある居室となっている。居室の中や押入れの整理は、本人や家族と協力しながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の状況を把握し、声掛け・誘導・介助を行っている。トイレや自室に自分で行けるように工夫している。	